

不二越上滝線の鉄道活性化施策

(1)沿線まちづくりにおいて必要とされるサービス水準の検討（案）

富山地方鉄道不二越上滝線沿線まちづくりを実現するために、必要とされるサービス水準を次のとおり設定する。

○全区間において終日 30 分に 1 本を基本的なサービス水準として確保

- ・あらゆる世代の市民が安心して外出し生活できる環境を形成するため、終日 30 分間隔での運行頻度及びパターンダイヤを確保する。
- ・夜間の帰宅需要に対応するため、終電時間を延長する。

○市街化区域において朝夕ピーク時 15 分に 1 本の高頻度運行を実現

- ・市街化区域では、駅周辺に都市機能や居住の集積を図るため、通勤通学利用が集中する朝夕ピーク時において、市内の他の鉄道路線と同程度のサービス水準である 15 分間隔での高頻度運行を目指す。

※市内の他鉄道路線のピーク時運行本数

富山港線：5 本/時

地鉄本線（越中三郷～電鉄富山）：5 本/時

J R 高山本線（富山～越中八尾）：4 本/時

表 沿線まちづくりにおいて必要とされるサービス水準

区間	時間帯	運行頻度（現行→目標）
市街化区域	朝・夕	2 本/時→4 本/時
	日 中	1 本/時→2 本/時
上記以外	朝・夕	2 本/時→2 本/時
	日 中	1 本/時→2 本/時

※上記の水準については、いずれも鉄道事業者の運行体制や増便経費の負担のあり方等を含め、今後の協議・検討を進める。

(2)施設整備（案）

(1)で検討するサービス水準を実現するとともに、将来にわたり持続可能な鉄道とするため、事業者とともに次の3つの観点から施設整備に取り組む。

①運行の高頻度化

- ・沿線まちづくりにおいて必要とされるサービス水準を実現するため、行違い施設を増設するとともに市街化区域の端部に折返し駅を整備する。
- ・折返し駅は、用地確保の容易性のほか、他の交通モードの接続性を考慮して駅周辺の土地利用を踏まえて決定する。
- ・運行本数の増加に伴い、必要な車両数を確保する。



②利便性・快適性の向上

- ・全ての市民が利用できるよう、スロープの設置による駅のバリアフリー化や、ホーム上屋の設置により待合環境の改善を図る。
- ・駅利用圏域を拡大し、新規利用の掘起しのため、駅へのアクセス改善や新駅整備のほか、P & R駐車場の整備を行う。
- ・他の交通モードとの結節を強化し、駅の拠点性を高めるための整備を行う。
- ・トータルデザインを実施して路線イメージを刷新する。



③安心・安全輸送の確保

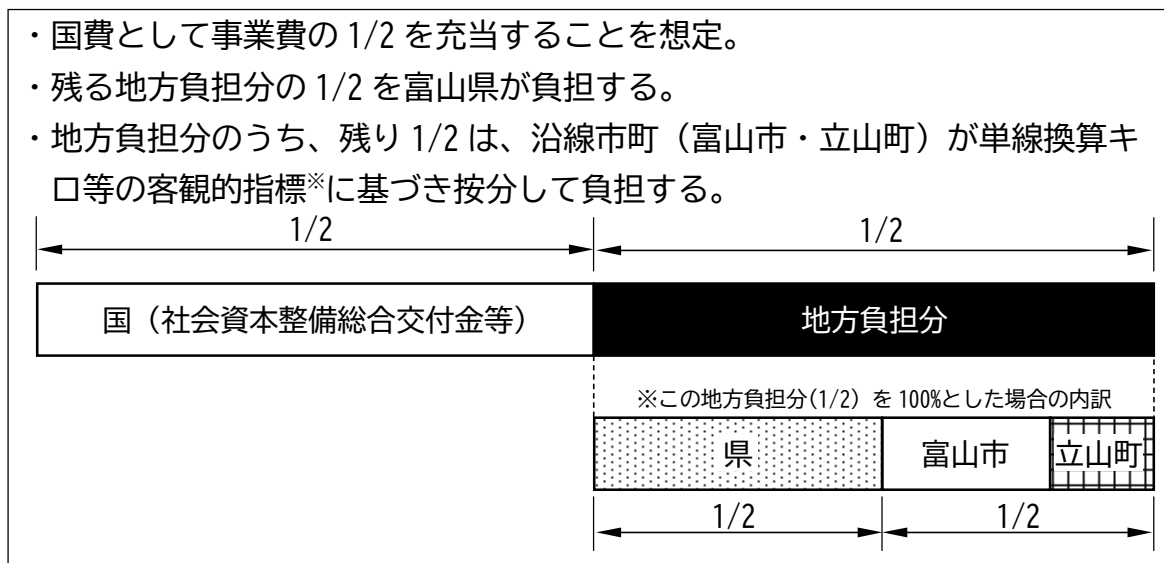
- ・線路設備や電路設備などの既存施設を更新する。
- ・メンテナンスの容易性や環境面に配慮した鉄道車両を導入する。



(3)施設整備の地方負担分にかかる費用負担の考え方

施設の整備に要する経費の負担については、整備する施設の性質に応じて、次の2つの区分に整理し、その基本的な考え方を以下のとおりとする。

○線路設備・電路設備・車両設備の改良・更新等、これまでの鉄道施設総合安全対策事業費補助の対象としてきた性質のもの



※これまで採用されている指標

線路設備・電路設備系：単線換算キロ

車両設備系：単線換算キロ(1/2)＋車両走行キロ(1/2)

○上記以外の新駅の整備や駅のバリアフリー化等、整備する自治体のみに効果が及ぶもの

